

タイトル	日本自動車産業と総力戦体制の形成（九）
著者	大場，四千男；OHBA, Yoshio
引用	開発論集(109)：105-154
発行日	2022-03-18

# 日本自動車産業と総力戦体制の形成 (九)

大 場 四 千 男 \*

## 目 次

- 一章 ヒットラーとドイツの大衆車構想
- 二章 日本の「大衆車構想」
- 三章 満州事変と陸軍の自動車政策
- 四章 昭和期満州事変の自動車部隊編成と国産自動車の脆弱性 (第 101 号)
- 五章 商工省・鉄道省の自動車政策 (第 102 号)
- 六章 総力戦体制の再編成と満州支配 (第 103 号)
- 七章 第一次世界大戦の総力戦と日本陸軍の総力戦構想 (第 104 号)
- 八章 軍用自動車補助法と軍用自動車の満州事変への動員 (第 105 号)
- 九章 軍用自動車補助法の改正と輸送革命 (第 106 号)
- 十章 国防国家と総力戦体制 (第 107 号)
- 十一章 長期的分析論とその課題
  - 1 自動車製造事業法は何故制定されたのか——問題提起
  - 2 長期分析論における人口論
    - (1) 江戸時代の人口問題と家族形態
    - (2) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」前半 (第 108 号)
    - (3) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」後半
    - (4) 江戸時代初期における農業経営形態と家族形態

### (3) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」後半

一、鳥目九銭老人前巻銭ツゝ 傳 左 衛 門 妻 忰 子 市 之 介 同 娘 熊 之 介 同 し の 同 き く 同 あ ま 下 人 弥 兵 衛 同 市 藏 一、鳥目弍銭老人前巻銭ツゝ 太 郎 弟 せ ん 一、鳥目五銭老人前巻銭ツゝ 忠 兵 衛	一、鳥目三銭老人前巻銭ツゝ 勘 左 衛 門 妻 忰 子 庄 三 郎 一、鳥目四銭老人前巻銭ツゝ 一 郎 左 衛 門 妻 忰 子 太 郎 娘 は つ 一、鳥目五銭老人前巻銭ツゝ 市 右 衛 門
---	---

\* (おおば よしお) 北海学園大学開発研究所特別研究員







妻  
 子 万 吉  
 子 娘 た つ  
 子 小 七  
 一、鳥目九銭老人前老銭ツ、  
 庄兵衛  
 妻  
 子 金左衛門  
 妻  
 庄兵衛子 介左衛門  
 妻  
 (ママ) 金右衛門娘 で う  
 下 人 三 次 郎  
 下 女 よ め  
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、  
 金十郎  
 妻  
 子 猪之介  
 娘 子 さ る  
 娘 子 牛 せ ち  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 文左衛門  
 妻  
 子 次郎兵衛  
 同 同 三左衛門  
 同 同 権 吉  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 惣兵衛  
 母  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 甚兵衛  
 妻  
 子 女 くらん  
 娘 子 か ん  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 五郎左衛門  
 妻  
 子 権 三 人  
 娘 子 な ん  
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、  
 十兵衛  
 妻  
 子 母 六 介  
 同 子 同 七 蔵

同 子 勘 七  
 同 子 十 三  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 権 太 郎  
 母  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 半 兵 衛  
 妻  
 半兵衛弟 甚 右 衛 門  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 八 兵 衛  
 妻  
 娘 子 子 門 十 郎  
 娘 子 娘 お ま  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 久 左 衛 門  
 妻  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 真言宗覚願寺住持 存 秀  
 隱 居 賢 秀  
 存秀弟子 音 秀  
 下 人 傳 吉  
 人数 合 百三拾老人  
 鳥目 合 百三拾五銭  
 但目銭共

9 瀬田村

一、鳥目四拾銭老人前老銭ツ、  
 名 主 長 崎 四郎右衛門  
 妻  
 子 又 四 郎  
 同 同 七 之 介  
 同 同 又 三 郎  
 同 同 下 人 作 右 衛 門  
 同 同 門 左 衛 門  
 同 同 藤 介  
 同 同 権 六  
 同 同 源 太  
 同 同 茂 介  
 同 同 七 兵 衛  
 同 同 長 兵 衛  
 同 同 甚 左 衛 門  
 同 同 権 左 衛 門  
 同 同 久 三 郎  
 同 同 弥 兵 衛  
 同 同 庄 兵 衛  
 同 同 加 左 衛 門

同 平 四 郎  
同 權 太 郎  
同 長 右 衛 門  
同 佐 次 兵 衛  
同 牛  
下 女 つ じ  
同 つ る す  
同 ま つ ら  
同 と く ら  
同 く ふ り  
同 き つ ん  
同 つ む や  
同 ミ な  
同 か ン  
同 ふ さ く  
同 さ や  
同 ミ つ  
同 ま て  
同 あ ま

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

年寄 ✓

白 居 十郎右衛門  
妻 市  
孫 市  
同 い 三 郎  
弟 半 兵 衛  
下 九 兵 衛  
同 半 兵 衛  
同 女 た つ  
同 女 あ ま

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

年寄 ✓

柳 田 源 右 衛 門  
次郎右衛門  
妻 藏  
下 人 市 介  
同 女 三 さ  
同 女 け き  
同 女 あ き

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

年寄

中 村 金右衛門  
妻 一 郎 兵 衛  
父 仁 兵 衛  
伯 父 半 兵 衛  
弟 同 文 二 郎  
妹 同 と は め  
同 は な

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

年寄 ✓

杉 田 傳 兵 衛  
妻 四郎左衛門  
子 妻 平 三 郎  
傳兵衛子 同 娘 し ゆ ん  
同 同 ま て  
四郎左衛門子 同 勤 太 郎  
下 人 猪 之 介  
下 女 さ か

一、鳥目拾三銭老人前老銭ツ、

年寄 ✓

角 居 六 兵 衛  
妻 母 は なく  
同 兵衛娘 同 子 き なく  
同 子 同 權 十 介  
下 人 八 久 三 蔵  
同 同 八 左 衛 門  
同 同 甚 く さ や  
下 女 同

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

年寄

長 崎 七 郎 兵 衛  
母 庄 兵 衛  
七郎兵衛子 妻 甚 五  
七郎兵衛子 同 七 之 介

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

年寄

小 泉 茂 右 衛 門  
妻 弥 五 兵 衛  
子 同 娘 ゆ き  
同 同 と さ ら  
弟 同 弥 次 兵 衛

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

年寄

長 崎 五 郎 右 衛 門  
妻 母 し ゆ ん  
五郎右衛門娘 子 傳 次 郎  
同 娘 同 弟 市 三 郎







母  
 五郎左衛門娘 娘 子 妹  
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、  
 所左衛門 妻  
 娘 同  
 一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、  
 五郎兵衛 妻  
 父 母 作左衛門  
 五郎兵衛弟 同 妹 同從弟  
 一、鳥目壱銭  
 一、鳥目壱銭  
 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、  
 六左衛門 勤右衛門 妻  
 六左衛門梓子 勤右衛門梓子 同  
 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、  
 作右衛門 娘 弟 同 同  
 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、  
 善次兵衛 妻  
 十右衛門 妻  
 十右衛門娘 下人 下女  
 一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、  
 茂兵衛 妻 母  
 茂兵衛梓子 弟

妻 傳 女  
 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、  
 八郎兵衛 才兵衛 妻  
 才兵衛梓子 同 同 弟  
 一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、  
 佐五兵衛 妻  
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、  
 重三郎 妻 女 梓子  
 一、鳥目拾六銭老人前壱銭ツ、  
 権右衛門 妻 二郎左衛門 妻 多兵衛 妻 権右衛門娘 二郎左衛門娘 同 下人 同 同 同 同 同 同 下女 同  
 一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、  
 源兵衛 妻 娘  
 一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、  
 太左衛門 妻 梓子 長二郎 次兵衛 妻



妻  
 三郎兵衛 三 次 郎  
 同 山 三 郎  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 利 兵 衛  
 妻 権 次 郎  
 下 人  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 仁 兵 衛  
 妻 権 門 三 郎 蔵  
 子 弟 同  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 三 左 衛 門  
 二 郎 吉  
 同 傳 う し  
 同  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 清 兵 衛  
 久 兵 衛  
 妻 ち や う  
 久兵衛 子 弟 同 娘  
 同 兵 さ  
 同 娘  
 一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、  
 文 左 衛 門  
 母  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 源 左 衛 門  
 妻 二 郎 作 な  
 下 人 下 女  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 清 兵 衛  
 妻 母 へ ん 介  
 清兵衛 娘 同 子  
 同 子  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 惣 左 衛 門  
 妻 勘 二 郎  
 子  
 惣左衛門 子 勘 二 郎 娘  
 同 娘  
 一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、  
 猪 之 介

母  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 庄 次 郎  
 妻 け つ  
 子 娘 弟 平 十 郎  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 十 兵 衛  
 妻 二 郎 兵 衛  
 子 弟 同 娘 下 人  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 八郎右衛門  
 妻 と ら つ つ  
 子 娘 同 十 兵 衛  
 一、鳥目壹銭  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 三 太 郎  
 妻 傳 三 郎 人  
 伯 父 弟 吉  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 孫 兵 衛  
 妻 よ し 家  
 娘 孫兵衛 子 宇右衛門  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 金 左 衛 門  
 妻 善 太 郎 い  
 子 娘 下 人 勘 三 郎  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 与 三 郎  
 妻 た つ  
 娘  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 弥 左 衛 門  
 妻 源 太 郎 郎  
 子 同 下 人 傳 右 衛 門





娘 同 忰 子 同 娘  
 こ ち よ ま  
 あ 権 と ま  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

忰 子  
 喜 兵 衛  
 長 右 衛 門  
 妻  
 長右衛門忰子  
 同 太 郎  
 同 刃 之 介  
 猪 之 介  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

忰 子 伯 父  
 六 左 衛 門  
 妻  
 三 五 郎  
 庄 右 衛 門  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

父 弟  
 吉 兵 衛  
 妻 宗 休  
 母 牛  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

忰 子 同 弟  
 十 三 郎  
 妻 ま つ  
 与 才 兵 衛  
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

市兵衛弟 市兵衛妹 同 甥 市兵衛兄 同 忰子  
 市 兵 衛  
 母 惣 妻  
 ち ち よ ま  
 く 三 右 衛 門 後 家  
 権  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

忰 子 娘 同  
 七 右 衛 門  
 妻 十 兵 衛  
 ふ 是 る  
 は  
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

忰 子  
 与 兵 衛  
 妻 源 兵 衛  
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

与兵衛忰子 同 娘 同  
 妻 七 左 衛 門  
 三 之 介  
 か や  
 せ き  
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

弟 弟 妹  
 一 郎 兵 衛  
 妻 母 平 三 郎  
 妻 源 右 衛 門  
 た ま  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

忰 子 下 人  
 猪 右 衛 門  
 妻 い さ  
 三 介  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

忰 子 娘 同  
 茂 右 衛 門  
 妻 三 介 女  
 た ん か  
 さ  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

妹 弟  
 八 や 介  
 庄 す  
 一、鳥目拾四銭老人前老銭ツ、

✓ 権 三 郎  
 妻 母 左 傳  
 は な  
 門 左 衛 門  
 妻 門 右 衛 門  
 妻 傳 兵 衛  
 た 利 長 蔵  
 下 人 下 女  
 一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、

忰 子 同 猪兵衛御  
 猪 兵 衛  
 半 兵 衛  
 三 左 衛 門  
 清 右 衛 門

猪兵衛忰子 妻 八 十 郎  
 猪兵衛弟 七 兵 衛  
 七兵衛娘 妻 七  
 同 七 き い  
 同 七 さ い  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 傳 右 衛 門  
 妻 三 蔵  
 忰子 三 蔵  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 佐五右衛門  
 母 又 右 衛 門  
 弟 又 右 衛 門  
 九 右 衛 門  
 妻 か ま く  
 忰子 娘 お ま き  
 同 お ま き  
 同 さ い  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 甚 右 衛 門  
 妻 佐 五 兵 衛  
 忰子 同 三 太 郎  
 同 同 六 け さ  
 娘 け さ  
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、  
 佐 左 衛 門  
 妻 安 兵 衛  
 忰子 安 妻 権  
 佐左衛門忰子 同 権  
 同 娘 う し  
 同忰子 い ぬ  
 左兵衛忰子 同忰子 左 兵 衛  
 妻 太 郎  
 一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、  
 加 兵 衛  
 母 加 兵 衛  
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、  
 三郎左衛門  
 忰子 長 兵 衛  
 妻 三郎左衛門忰子 権 四 郎

権四郎娘 妻 は つ  
 同 従 弟 ま つ  
 平 三 郎  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 十 右 衛 門  
 妻 忠 右 衛 門  
 忰子 娘 お せ さ  
 同 同 と きめ  
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、  
 清 兵 衛  
 妻 傳 兵 衛  
 忰子 娘 た つ  
 同 同 あ ま  
 忰子 同 五 庄 郎  
 同 弟 同 弥次右衛門忰子 金 兵 衛  
 同 娘 同 娘 き く  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 次 郎 兵 衛  
 妻 た ん 女  
 娘 忰子 九 十 郎  
 甥 門 三 郎  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 平 左 衛 門  
 忰子 長 十 郎  
 平左衛門忰子 妻 七 左 衛 門  
 平左衛門忰子 妻 猪 兵 衛  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 德 兵 衛  
 妻 庄 二 郎  
 同 同 か ま  
 一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、  
 真言宗長岡寺住持 了 識  
 隠 居 清 忍  
 人数 合 貳百三拾七人  
 鳥目 合 貳百四拾五銭  
 但目銭共









娘 子 同 同 同  
 たんちよ  
 甚介  
 権太郎  
 七郎左衛門

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

✓ 権兵衛  
 妻  
 娘 下 人  
 り次郎

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

仁左衛門  
 妻  
 子 子 子  
 宛之介  
 けさら  
 く

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

惣兵衛  
 妻  
 子 子  
 源右衛門  
 妻  
 惣兵衛娘  
 源右衛門娘  
 いぬ  
 かん

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

四郎右衛門  
 妻  
 子 子 子  
 八介  
 よし  
 三五郎  
 おな

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

✓ 六左衛門  
 妻  
 子 子  
 理左衛門  
 妻  
 六左衛門娘  
 同 子  
 同 弟  
 理左衛門子  
 下 人  
 とめ  
 どうしや  
 平兵衛  
 佐太郎  
 権左衛門

一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、

✓ 佐太右衛門  
 妻  
 母  
 佐太右衛門子  
 下 人  
 同 同 同  
 九十郎  
 半七郎  
 金十郎  
 次郎  
 ごん

下 女 同 同  
 ひつ  
 はつ  
 ふじ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

七郎左衛門  
 妻  
 子 子  
 七之介  
 あまつ

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

✓ 次郎兵衛  
 妻  
 母  
 子 子  
 ぎん  
 次郎  
 まき  
 りよ  
 よち  
 よ太

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

✓ 長兵衛  
 妻  
 子 子  
 かく  
 三六猪  
 兵衛  
 長三郎  
 牛さつ

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

弥五左衛門  
 妻  
 娘 子  
 太郎市  
 次郎左衛門  
 やすめ  
 む之介  
 弥半之介  
 三之介

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

弥十郎  
 妻  
 娘  
 おく

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

太右衛門  
 妻

母  
太右衛門弟 与 四 郎  
同 妹 六 介  
下 女 ね い  
あ ま  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

権 四 郎  
母 四 郎  
権四郎妹 な つ  
同 弟 善 次 郎  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

物 四 郎  
妻 あ ま  
娘 な つ  
娘  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

德 左 衛 門  
妻  
德左衛門娘 母 ち や う  
一、鳥目五銭老人前老銭

(ツ、脱カ) 山 三 郎  
妻  
忰子 三 郎 右 衛 門  
同 娘 長 松  
さ い  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

弥 五 兵 衛  
妻  
忰子 半 四 郎  
娘 ふ で  
一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

金 左 衛 門  
妻  
忰子 又 左 衛 門  
娘 ぢ や う  
忰子 と く  
養子 傳 三  
一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

勘 兵 衛  
妻  
忰子 百 介  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

✓ 甚 五 兵 衛  
忰子 八 之 介  
娘 し ゅ  
下 人 三 介  
一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

彦 兵 衛  
妻 兵 衛  
彦兵衛忰子 孫 三 蔵  
同 同 娘 か 六 ま  
同 同 娘 な べ  
し や う ぶ  
一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

庄 左 衛 門  
庄 右 衛 門  
忰子 三 太  
同 娘 ま す  
ゆ き  
一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

与 惣 左 衛 門  
妻 久 四 郎  
忰子 娘 三 介  
甥  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

甚 兵 衛  
妻 太 郎 左 衛 門  
忰子 娘 な つ  
一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

庄 右 衛 門  
妻 母 三 郎  
庄右衛門伯父 同 娘 た つ  
一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

才 兵 衛  
妻 母 め  
娘 よ つ  
同 は き  
あ  
一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

弥 之 介  
妻 喜 太 郎  
忰子 同 甚 介  
一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

理 兵 衛  
妻 母 太 郎  
理兵衛忰子

同 娘 ひ さ  
同 弟 辰 之 介

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

由左衛門  
妻  
猪 之 介  
か ま き  
あ な つ

弟 同 妹 同

一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、

吉 兵 衛  
妻  
母

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

三郎左衛門  
妻  
け さ  
百 権 介  
く に

娘 子 弟 妹

一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、

小 右 衛 門  
か く

娘

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、

与 五 兵 衛  
妻  
市 兵 衛  
母  
喜 之 介  
八 之 介  
三 太 郎

父 与五兵衛子 同 同

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、

喜 兵 衛  
妻  
太 郎  
勘 三 郎  
三 五

子 同 同

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

弥次右衛門  
妻  
父 忠 左 衛 門  
母  
か ん  
ちやうめい

弥次右衛門娘 同

一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、

✓ 武 右 衛 門  
妻  
母

子 長 松  
娘 か や  
下 人 三 介  
同 傳 四 郎  
下 女 ね い

一、鳥目拾三銭老人前壱銭ツ、

✓ 長 十 郎  
妻  
母

長十郎子 同 同 娘

長 松  
せ ん  
三 郎  
ち や う

八郎兵衛後家  
後家子 平 右 衛 門  
妻  
後家子 三 之 介  
下 人 仁 兵 衛  
下 女 ひ さ

一、鳥目拾三銭老人前壱銭ツ、

✓ 甚 左 衛 門  
妻 四 郎  
門 妻 右 衛 門  
喜 百 介  
こ ち よ  
あ き  
ぬ ら  
と 三 太  
む ま  
下 人 傳 十 郎

甚左衛門子 同 同 娘 同 同 同 同 下 人

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

弥 兵 衛  
妻 六 兵 衛  
た ん  
き よ

子 同 同 娘 同

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、

勘 左 衛 門  
妻 仁 兵 衛  
子 妻 次 郎  
同 三 郎  
仁兵衛子 勘 三 郎  
う し







		十郎右衛門
		妻
娘		まさ
一、鳥目四銭老人前壹銭ツ、		
		八右衛門
		妻
娘		ふり
同		たんな
一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、		
		八左衛門
		妻
娘		りん
同		いや
子		い
同		三吉
同		むま
一、鳥目五銭老人前壹銭ツ、		才十郎
		佐兵衛
		妻
子		長三郎
同		うし
同		午之介
一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、		
	✓	甚五左衛門
		妻
弟		源五右衛門
下人		三十郎
下女		なつ
同		あま
一、鳥目三銭老人前壹銭ツ、		
		角左衛門
		妻
子		甚太郎
一、鳥目四銭老人前壹銭ツ、		
		弥次兵衛
		妻
娘		なつ
同		せん
一、鳥目三銭老人前壹銭ツ、		
		半左衛門
		妻
娘		はな
一、鳥目五銭老人前壹銭ツ、		
	天台宗永安寺住持	乗海
		弟子
		同
		道心
		下人
		又右衛門

一、鳥目三銭老人前壹銭ツ、

		日蓮宗妙法寺住持	立	玄
			隱居	春山
			弟子	長次郎
人数	合	五百六拾貳人		
鳥目	合	五百八拾貳銭		
			但目銭共	

13 横根村

(鳥目のこと脱カ) ✓ 善兵衛

		妻
		母
	善兵衛弟	五郎兵衛
		妻
	善兵衛子	三太郎
	同	金三郎
	同	丹松
	同	娘あ
	同	な
		下人 権右衛門
人数	合	拾貳人
鳥目	合	拾貳銭

14 宇奈根村

一、鳥目拾五銭老人前壹銭宛

	名主	✓	荒居	市郎兵衛
				妻
			子	駒之介
			下人	八兵衛
			同	権左衛門
			同	佐次兵衛
			同	安右衛門
			同	由右衛門
			同	源介
			下女	角介
			同	いちや
			同	たま
			同	ま
			同	よし
			同	いと
一、鳥目五銭老人前壹銭宛		年寄	海老沢	三右衛門
				妻
			娘	はな
			子	縫左衛門
			同	六之介
一、鳥目貳拾壹銭老人前壹銭宛		年寄	✓	海老沢
				善十郎



娘 あ ま  
 八郎兵衛弟 忠 左衛門  
 妻  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 仁 兵 衛  
 妻  
 母  
 仁兵衛娘 ひ さ  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 太 兵 衛  
 妻  
 母  
 太兵衛梓子 午  
 同梓子 長 四 郎  
 下 人 喜 右 衛 門  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 勘 左 衛 門  
 妻  
 父 次 郎 兵 衛  
 母  
 勘左衛門梓子 と ら  
 下 女 こ ち よ  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 五郎右衛門  
 妻  
 梓 子 権 四 郎  
 娘 と め  
 梓 子 八 介  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 佐右衛門後家  
 娘 ね い  
 同 さ わ  
 同 つ や  
 甚五左衛門 後 家  
 一、鳥目九銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 作 左 衛 門  
 妻  
 母  
 作左衛門梓子 源 兵 衛  
 妻  
 源兵衛娘 ひ や く  
 下 人 九 右 衛 門  
 妻  
 九右衛門梓子 八 三 郎  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 甚 右 衛 門  
 母  
 甚右衛門弟 た つ

同 妹 こ あ ま  
 下 女 こ あ ま  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 七 郎 兵 衛  
 妻  
 梓 子 猪 之 介  
 同 娘 と ら 松  
 同 あ さ ま い  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 傳 兵 衛  
 妻  
 梓 子 半 兵 衛  
 同 竹 藏  
 一、鳥目拾式銭老人前老銭ツ、  
 次 右 衛 門  
 妻  
 梓 子 弥 五 兵 衛  
 妻  
 弥五兵衛梓子 と ら  
 同梓子 同 娘 ち や う  
 同 娘 あ ま 吉  
 次右衛門梓子 同 娘 万 は つ  
 同 娘 は あ ま つ  
 同 娘 あ ひ ん  
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、  
 善 兵 衛  
 妻  
 梓 子 善 左 衛 門  
 同 同 権 八 松  
 同 娘 い ん ぬ め  
 梓 子 く 弟 松  
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、  
 ✓ 長 左 衛 門  
 妻  
 梓 子 与 四 郎  
 与四郎梓子 妻 四 郎  
 下 人 長 四 郎  
 同 同 奎 兵 衛  
 下 女 五 兵 衛  
 同 た ん  
 同 は つ ま  
 同 あ ま  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 平 左 衛 門

妻  
母  
平左衛門<sup>倅子</sup> 庄之介  
同 娘 こちよ  
同<sup>倅子</sup> 次郎

一、鳥目三銭老人前老銭ツゝ

慶喜  
弟 善三郎  
妹 とめ

一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ

✓ 惣左衛門  
妻  
父 太郎左衛門  
母  
惣左衛門<sup>倅子</sup> 久太郎  
下 人 門三郎  
下 女 つた

一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ

✓ 武兵衛  
妻  
倅子 彦太郎  
同 文次郎  
同 あま  
下 女 しま  
下 人 長蔵

一、鳥目九銭老人前老銭ツゝ

✓ 七郎左衛門  
妻  
娘<sup>倅子</sup> しやう  
同 熊之介  
同 権  
下 人 佐五兵衛  
同 女 作右衛門  
同 はまん  
同 まん

一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ

七右衛門  
妻  
七右衛門<sup>娘</sup> かね  
同 倅子 牛  
同 娘 たん  
同<sup>弟子</sup> 長四郎

一、鳥目六銭老人前老銭ツゝ

五郎兵衛  
妻  
母  
五郎兵衛<sup>倅子</sup> 三太郎

同<sup>倅子</sup> いぬ  
同 娘 りん

一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ

六左衛門  
妻  
母  
六左衛門<sup>倅子</sup> 牛  
同<sup>倅子</sup> たにん  
同 弟 権  
同 妹 そめ

一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ

八郎左衛門  
妻  
娘 まつ  
倅子 とら

一、鳥目六銭老人前老銭ツゝ

安左衛門  
妻  
父 久右衛門  
母 三郎  
久右衛門<sup>弟</sup> 傳三郎  
安左衛門<sup>倅子</sup> 太郎

一、鳥目八銭老人前老銭ツゝ

✓ 平兵衛  
妻  
娘 かね  
同 倅子 たん  
同 権  
下 人 市兵衛  
下 女 たつ

一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ

清三郎  
妻  
錚 六兵衛  
六兵衛<sup>倅子</sup> 甚

一、鳥目九銭老人前老銭ツゝ

三郎右衛門  
妻  
倅子 七郎右衛門  
七郎右衛門<sup>倅子</sup> 妻  
同<sup>倅子</sup> とら  
同<sup>倅子</sup> 太郎  
三郎右衛門<sup>倅子</sup> 長松  
同 娘 とめ  
同 弟 惣兵衛

一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ

七左衛門  
妻  
三太郎  
ひつ

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

善兵衛  
妻  
たんく  
きく  
文左衛門  
よしま  
あ

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

天台宗観音寺住持  
弟子  
大進  
六兵衛  
宇之介

一、鳥目式銭老人前老銭ツ、

日蓮宗常光寺住持  
下人  
日弥兵衛  
人数 合 式百九拾四人  
鳥目 合 三百六銭  
但目銭共

15 岩戸村

一、鳥目拾五銭老人前老銭ツ、

名主 川合次左衛門  
妻  
父 七左衛門  
母  
次左衛門子  
同 娘 牛之助  
同 娘 きく  
下人 かね  
同 長兵衛  
同 久七  
同 七兵衛  
同 庄三郎  
下女 てき蔵  
同 ふく  
同 まつ  
同 よし

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

次郎右衛門  
妻  
子 平三郎  
同 与三郎  
同 之介  
同 かなつ  
か

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
年寄 秋本喜右衛門  
母  
喜右衛門妹 ひさ

一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、

年寄 秋本吉左衛門  
妻  
母  
吉左衛門子 甚兵衛  
同子 三之介  
同 娘 たんちよ  
同 妹 はつ  
同 弟 猪右衛門  
猪右衛門娘 妻 さつき  
同 娘 あ

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

子 九右衛門  
同 新兵衛  
半四郎

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

年寄 小川八郎左衛門  
妻  
子 傳介  
同 次郎  
下人 長蔵  
下女 あき

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

子 八郎右衛門  
同 六郎兵衛  
六郎兵衛子 妻 市三郎  
同子 吉三郎  
八郎右衛門子 傳十郎

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

八左衛門  
妻  
子 弥五左衛門  
同 六右衛門  
妻  
六右衛門子 金三  
八左衛門娘 ねい  
同 娘 びい  
同子 徳兵衛  
同 娘 まん

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

子 久左衛門  
同 弥兵衛

妻  
弥兵衛忰子 午 之 介  
同 娘 ね い  
久左衛門忰子 八 兵 衛

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

八 郎 兵 衛  
 妻  
忰子 清 五 郎  
娘 あ き  
同 な つ  
同 ふ り

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

三 左 衛 門  
 妻  
忰子 権  
同 八

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

十 兵 衛  
 妻  
忰子 源 太 郎  
同 牛  
娘 へ ん  
同 あ ま  
同 ふ う

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

仁 左 衛 門  
 妻  
忰子 太 郎 兵 衛  
太郎兵衛忰子 妻 甚 介  
同忰子 た つ  
同 娘 は つ

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

清 兵 衛  
忰子 七 郎 右 衛 門  
 妻

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

孫 市  
 妻  
忰子 清 三 郎  
孫市忰子 妻 市 介

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

✓ 傳 兵 衛  
 妻  
娘 下 人 か 次 郎

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

✓ 長 右 衛 門  
 妻  
 母 は つ  
長右衛門娘 同 忰子 千  
同忰子 長 太 郎  
同 妹 ま つ  
下 人 三 次 郎

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

半 兵 衛  
 妻  
忰子 権 之 介

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

✓ 甚 左 衛 門  
 妻  
忰子 五 兵 衛  
五兵衛娘 下 人 い ぬ  
同 庄 三 郎  
同 牛

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

傳 右 衛 門  
 妻  
忰子 久 太 郎  
同 大 郎  
同 娘 る す

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

傳 左 衛 門  
 妻  
忰子 助 七 郎  
同 娘 七 よ し  
同忰子 三 介  
同 五 郎  
下 女 な つ

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

吉 右 衛 門 後 家  
娘 同 ゆ り  
同 く に

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

勘 兵 衛  
 妻  
忰子 市 郎 兵 衛  
娘 し ま

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

左 五 兵 衛  
 妻  
娘 ゆ り

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、  
 德左衛門  
 妻  
 母  
 德左衛門<sup>子</sup> 太 郎  
 同<sup>子</sup> 五 郎  
 同 弟 十 右 衛 門

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、  
 市右衛門  
 妻  
 娘 同 たんちよ  
 こちよ

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、  
 権左衛門  
 妻  
 娘 同 ま ん  
 子 八 ふ う  
 娘 同 ふ く

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、  
 年寄 ✓ 上野平兵衛  
 妻  
 子 平右衛門  
 下 人 彦兵衛

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、  
 新左衛門  
 妻  
 子 新 蔵  
 新左衛門<sup>弟</sup> 金 十 郎

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、  
 勘十郎<sup>弟</sup> 勘 十 郎  
 同 弟 傳 猪 之 介  
 同 弟 権 大 助  
 同 弟 大 助

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、  
 德兵衛  
 妻  
 母  
 德兵衛<sup>子</sup> 六 之 介

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、  
 平左衛門  
 妻  
 子 七 郎 兵 衛  
 妻

平左衛門<sup>子</sup> 同 娘 く ら  
 ゆ り

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、  
 六左衛門  
 妻  
 子 同 娘 と ら 蔵  
 長 次 郎  
 し も

一、鳥目拾四錢老人前老銭ツ、  
 年寄 ✓ 須田権兵衛  
 妻  
 子 庄右衛門  
 妻  
 庄右衛門<sup>娘</sup> 同<sup>子</sup> は つ  
 権兵衛<sup>子</sup> 同<sup>子</sup> 同 娘 か ま  
 同<sup>子</sup> 同 娘 源 右 衛 門  
 同<sup>子</sup> 同 娘 権 十 郎  
 同<sup>子</sup> 同 娘 と め  
 同<sup>子</sup> 同 娘 市 三 郎  
 下 人 同 九 仁 蔵  
 下 女 同 長 四 郎  
 あ ま

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、  
 次郎兵衛  
 母  
 同 妹 同 妹 あ き  
 に く

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、  
 作右衛門  
 妻  
 娘 同 たんちよ  
 い ん

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、  
 長左衛門  
 妻  
 子 同 娘 長 太  
 三 次 郎

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、  
 三郎兵衛  
 妻  
 子 同 娘 三郎右衛門  
 妻  
 三郎右衛門<sup>子</sup> 三 五 郎

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、  
 年寄 秋本猪兵衛  
 妻  
 子 八 兵 衛

八兵衛忰子 妻 太 郎  
 猪兵衛娘 ミ つ  
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、  
 仁右衛門 妻 女  
 娘 な つ  
 忰子 勘 次 郎  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 五郎兵衛 妻 子  
 忰子 百 仁右衛門  
 五郎兵衛弟 同 弟 金 十 郎  
 同 甥 太 郎  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 又 兵 衛 妻 子  
 娘 す て  
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、  
 次 右 衛 門 妻 子  
 娘 き い め  
 忰子 く め  
 同 三 太  
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、  
 天台宗明静院住持 学 善  
 弟 子 三 位  
 下 人 関 蔵  
 浄土宗慶嚴寺住持 傳 栄  
 一、鳥目老銭  
 人数 合 貳百四拾九人  
 鳥目 合 貳百五拾七銭  
 但目銭共  
 16 猪 方 村  
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、  
 名主 ✓ 小 川 次 郎 兵 衛 妻 子  
 忰子 千 松  
 同 牛 之 助  
 同 百 仁 兵 衛  
 下 人 市 蔵  
 同 市 八 蔵  
 下 女 八 蔵  
 同 同 女 つ  
 同 同 女 や  
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、  
 年寄 ✓ 小 川 太 左 衛 門

養 子 妻 吉 三 郎  
 娘 ま せ つ き  
 同 下 人 孫 兵 衛  
 下 女 た つ  
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、  
 年寄 小 川 文 右 衛 門 妻 子  
 忰子 庄 之 助  
 娘 子 せ き  
 忰子 三 蔵  
 同 娘 お と  
 娘 子 ふ り  
 忰子 孫  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 年寄 安 田 八 右 衛 門 妻 子  
 弟 与 四 右 衛 門  
 同座頭 慶 千 代  
 八右衛門娘 同 娘 下 女 慶 千 代  
 下 女 た つ  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 年寄 ✓ 小 川 市 郎 左 衛 門 妻 子  
 父 次 兵 衛  
 市郎左衛門忰子 同 娘 人 猪 之 助  
 下 人 吉 兵 衛  
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、  
 猪 右 衛 門 妻 子  
 同 弟 母 と め  
 同 同 猪 之 助  
 同 同 猪 之 助  
 同 同 猪 之 助  
 同 同 猪 之 助  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 市 兵 衛 妻 子  
 忰子 甚 兵 衛  
 甚兵衛忰子 妻 子  
 同 市 十 郎  
 庄 太 郎  
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、  
 太 兵 衛 妻 子  
 忰子 市 之 助





一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

佐次兵衛  
妻  
妹  
佐次兵衛  
同娘  
同  
同  
同  
同  
同  
同

か  
八  
ね  
と  
へ  
六  
五

な  
いら  
や  
郎

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

九兵衛  
妻  
才  
さ

二  
郎  
る

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

権右衛門  
妻  
け

さ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

孫左衛門  
妻  
き  
大  
三

く  
助  
太  
郎

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

作右衛門  
妻  
久  
熊  
ふ

太  
郎  
り

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

半左衛門  
妻  
与  
三  
り  
ひ

兵  
衛  
助  
ん  
さ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

長兵衛  
又兵衛  
妻  
い  
べ

ぬ  
ん

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

太郎右衛門  
妻  
五左衛門

太郎右衛門  
座頭  
同  
五左衛門  
人数  
鳥目

仲子  
仲子  
合  
合

妻  
了  
牛  
孫  
八人  
文

三  
郎  
三  
郎  
八  
文

但目銭共

17 和泉村

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

石居  
仲子  
伝左衛門  
同  
仲子

伝左衛門  
同  
仲子

左衛門  
妻  
源  
妻  
五  
八

右衛門  
郎

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

年寄  
新居  
仲子  
九郎左衛門  
同  
仲子  
同  
同

九郎左衛門  
同  
同  
同

左衛門  
妻  
熊  
あ  
よ

之  
介  
き  
し

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

年寄  
市川  
伝右衛門  
同  
同  
同  
同  
同  
同

市川  
同  
同  
同  
同  
同  
同

右衛門  
妻  
母  
い  
か  
と  
こ  
三  
六

右衛門  
ぬ  
なら  
ち  
之  
助  
助

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

年寄  
小町  
娘  
同  
同  
同  
長左衛門

小町  
同  
同  
同  
同  
同

左衛門  
妻  
は  
り  
ゆ  
文

左衛門

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

仲子  
娘  
同  
同

仲子  
同  
同  
同

四郎左衛門  
妻  
と  
ち  
こ  
ま

ら  
や  
ち  
よ  
き



娘 く め  
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、  
 安左衛門  
 妻  
 娘 ちやう  
 同 ろく  
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、  
 勘左衛門  
 妻  
 娘 は な  
 倅 子 す け  
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、  
 作兵衛  
 妻  
 母  
 作兵衛弟 六右衛門  
 同 妹 に わ  
 一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、  
 三左衛門  
 倅 子 牛  
 同 三 介  
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、  
 市郎兵衛  
 妻  
 娘 や す  
 倅 子 ず く  
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、  
 弥右衛門  
 妻  
 倅 子 ミ の  
 同 牛  
 弥右衛門弟 弥五左衛門  
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、  
 佐五兵衛  
 妻  
 倅 子 竹 蔵  
 同 か ま  
 一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、  
 四郎右衛門  
 娘 と ら  
 倅 子 午  
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、  
 吉右衛門  
 妻  
 娘 たんちより  
 同 ふ り  
 同 と ら  
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

勘 三 郎  
 妻 ちよ  
 娘 こさん  
 倅 子 さご  
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、  
 山伏 ✓ 多宝院  
 弟子 行宝院  
 妻 弁之介  
 行宝院倅子 下人 七郎兵衛  
 人数 合 百六拾貳人  
 鳥目 合 百六拾六銭  
 但目銭共

18 八幡山村

一、鳥目拾四銭老人前壱銭ツ、  
 年寄 ✓ 嶋田 権右衛門  
 妻  
 母 権太郎  
 権右衛門倅子 下人 半三郎  
 同 三助  
 同 文次右衛門  
 同 長三郎  
 下女 たねまつ  
 同 あまつ  
 同 かまつ  
 下人 長兵衛  
 妻  
 一、鳥目拾壱銭老人前壱銭ツ、  
 年寄 ✓ 植村 市右衛門  
 倅 子 妻 六之介  
 娘 なさる  
 同 市右衛門弟 利兵衛  
 下人 妻 吉  
 同 長次郎  
 同 同 次あけ さ  
 一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、  
 三左衛門  
 妻 権之助  
 三左衛門倅子  
 妻 源 助  
 三左衛門倅子



20 馬引沢村

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

小林 次郎左衛門  
 妻  
 忰子 安右衛門  
 同 次郎介  
 娘 りんめ  
 同 くめ  
 次郎左衛門弟 源兵衛

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

新左衛門  
 妻  
 忰子 次郎右衛門  
 同 喜三郎  
 娘 おな  
 忰子 三右衛門  
 妻

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

又兵衛  
 妻  
 忰子 孫左衛門

一、鳥目五銭壹人前壹銭ツ、

金兵衛  
 妻  
 忰子 七げん  
 同 娘 るす

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

太郎兵衛  
 妻  
 母  
 太郎兵衛忰子  
 太郎兵衛弟 千太郎  
 同 妹 佐次兵衛  
 同 弟 あちよ  
 長松

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

長右衛門  
 妻  
 母

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

徳兵衛  
 妻  
 忰子 喜兵衛

一、鳥目貳銭壹人前壹銭ツ、

傳右衛門  
 妻

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

✓ 三左衛門  
 妻  
 娘 あき  
 同 なつ  
 忰子 虎之介  
 下人 佐右衛門  
 同 八兵衛

人数 合 四拾四人  
 鳥目 合 四拾四銭

惣寄

一、千六百拾三人 1 世田谷村  
 内 (八百六拾四人 男  
 七百貳人 女  
 四拾七人 出家  
 此鳥目壹貫六百七拾七文 但目銭共

一、百五拾貳人  
 内 (四拾八人 出家 (同所御朱印  
 五拾八人 男 (寺社并豪徳寺江湖二  
 四拾六人 女 (参候出家共二  
 此鳥目百五拾六文 但目銭共

一、貳百貳拾六人 2 弦巻村  
 内 (貳百拾四人 男  
 九拾六人 女  
 六人 出家  
 此鳥目貳百三拾四文 但目銭共

一、三百三拾貳人 3 新町村  
 内 (百七拾九人 男  
 百五拾壹人 女  
 貳人 出家  
 此鳥目三百四拾四文 但目銭共

一、五百八拾八人 4 用賀村  
 内 (貳百八拾八人 男  
 貳百九拾三人 女  
 七人 出家  
 此鳥目六百拾貳文 但目銭共

一、貳百九拾四人 5 野良田村  
 内 (百六拾九人 男  
 百貳拾四人 女  
 壹人 出家  
 此鳥目三百六文 但目銭共

一、百拾貳人 6 小山村  
 内 (五拾七人 男  
 五拾四人 女  
 壹人 出家  
 此鳥目百拾六文 但目銭共

一、三百三拾九人	7	下野毛村
内（百八拾六人 男 百五拾人 女 三人 出家		
此鳥目三百五拾壹文 但目錢共		
一、百三拾壹人	8	上野毛村
内（六拾九人 男 五拾九人 女 三人 出家		
此鳥目百三拾五文 但目錢共		
一、六百五人	9	瀬田村
内（三百三拾三人 男 貳百六拾四人 女 八人 出家		
此鳥目六百貳拾九文 但目錢共		
一、貳百三拾七人	10	岡本村
内（百三拾六人 男 九拾九人 女 貳人 出家		
此鳥目貳百四拾五文 但目錢共		
一、百四拾人	11	鎌田村
内（七拾三人 男 六拾六人 女 壹人 出家		
此鳥目百四拾四文 但目錢共		
一、五百六拾貳人	12	大蔵村
内（貳百九拾六人 男 貳百六拾人 女 六人 出家		
此鳥目五百八拾貳文 但目錢共		
一、貳百九拾四人	13	宇奈根村
内（百四拾八人 男 百四拾三人 女 三人 出家		
此鳥目三百六文 但目錢共		
一、貳百四拾九人	14	岩戸村
内（百三拾六人 男 百拾人 女 三人 出家		
此鳥目貳百五拾七文 但目錢共		

一、百七拾八人	15	猪方村
内（九拾六人 男 八拾三人 女		
此鳥目百八拾貳文 但目錢共		
一、百六拾貳人	16	和泉村
内（八拾三人 男 七拾九人 女		
此鳥目百六拾六文 但目錢共		
一、八拾七人	17	八幡山村
内（四拾七人 男 四拾人 女		
此鳥目八拾七文		
一、四拾四人	18	下馬引沢村
内（貳拾五人 男 拾九人 女		
此鳥目四拾四文		
一、貳拾貳人	19	太子堂村
内（拾三人 男 九人 女		
此鳥目貳拾貳文		
一、拾貳人	20	横根村
内（六人 男 六人 女		
此鳥目拾貳文		
村数 合 貳拾ヶ村		
人数 合 六千三百七拾九人		
内（六千貳百貳拾七人		
内（三千三百貳拾七人 男 貳千八百七人 女 御領分 九拾三人 出家		
内 百三拾壹人		
内（貳拾七人 出家 御朱印寺社 五拾八人 男 門前共ニ 四拾六人 女		
貳拾壹人 豪徳寺江湖ニ付他所ニ参居候出家		
鳥目 合 六貫六百四拾三文 但目錢共		
内 百五拾六文 御朱印寺社門前共并豪徳寺		
江湖ニ付参居候出家共ニ		
以上		
元禄八年乙亥六月十二日 改人 加藤浅右衛門 ㊦		

〔世田谷区史料第三集〕507～590頁）

#### (4) 江戸時代初期における農業経営形態と家族形態

以上の資料として掲げた「元禄八年世田谷貳拾ヶ村村御帳」は村落共同体の「下人経営」者である豪農層による地主制手作経営の展開を表示するものである。この点で速水 融<sup>はやみ あきら</sup>教授が「下人経営」を中世の農業遺産として位置づけている点はこの世田谷二拾ヶ村における豪農層

である代官大場家を頂点にする村役人層（名主、年寄等）の村落共同体支配の強靱性を現している。とするなら、中世の農業遺産である「下人経営」の実態を見てみると145頁の図表-3の「世田谷二十ヶ村の「下人経営」者の分布」として要約される。

この図表-3に見出される世田谷二十ヶ村における「下人経営」の規模を大小の順位毎に並べて見ると146頁の図表-4「村落毎「下人経営」の規模別分布」となる。

この146頁図表-4は「下人経営」の(1)規模別分布と(2)その「下人経営」者の地位とを示すものである。速水融教授が中世の農業経営の典型として類型化された「下人経営」が依然として江戸幕府の初期段階（元禄8年（1695））において世田谷二十ヶ村落の中で支配的形態として根付いているのである。

図表-4において注目すべき第1の点は、瀬田村の名主長崎四郎右衛門の「下人経営」規模での下人数35人と世田谷村代官大場市左衛門の下人数26人とを頂点にする世田谷村二十ヶ村での富士山型ピラミッド型の展開である。この「下人経営」のピラミッドの頂点に立つ代官大場市左衛門は後北条時代の吉良家の重臣として世田谷城を館にする中世在地領主として世田谷村を支配する士豪地主<sup>みょうしゅ</sup>且つ名主として荘園支配を続け、その直営地を隷属民である下人に耕作させているのである。中世の荘園は摂関家、或いは名門神社の支配委託を受けた在地領主の名主としての地域支配権を世襲化させ続け、近世へ移行する。しかし、豊臣秀吉の検地令は直接奉行の派遣の下で縄入れをさせ、面積・地味・生産等を調査し、収獲物に対して貢租を負担する農民を決定し、小農民の自立的発展を推進する土地政策である。それゆえ、豊臣秀吉、さらに徳川家康は検地制度を通して荘園制を解体させ、近世の小農民の自立する村落共同体の自治体制を成立、発展させることを近世の農業＝土地政策の基本と位置づけるのである。近世は荘園制から村落共同体への移行に伴ない、小農民の貢納制を担う5人組制の年貢徴収機構、村役人層を中心にする村落自治制、小農民を株主とする農本主義に基づく封建社会＝幕府体制を特徴とする。したがって、世田谷村は中世の「下人経営」から近世への小農民経営へ移行するため、「下人経営」を解体する農民層分解を推進して独立自営農民層への形成を指向するが、イギリスのヨーマン独立農民層と相違する。この結果、日本の小農民層の形成はむしろ封建的地主層＝寄生的地主層の隷属下に置かれる。かくて、日本の小農民層は、イギリスのヨーマン、或いはジェントルマンの富農層<sup>フリーホルダー</sup>、自由保有農民層の形成による3分割制農業資本主義への発達の道を閉ざされるのである。ここにイギリス型と異なる日本型の発達が近世の農民層分解によって生じるが、それは世田谷代官大場家の地主＝小作制へ帰結する農民層分解の中に窺える。「下人経営」の農民層分解は前述したように農業資本主義への発達の起点となるのみではなく、封建制の強靱化を強める寄生地主制＝小作制度へ帰結するのである。それゆえ、こうした中世の「下人経営」から寄生地主制へ移行する大場家のケースを次に検討する。このように寄生地主制へ向かう農民層分解への原因は次の3つの点に求められる。1つは田租の「5ツ割」による重税の影響である。2つ目は「下人経営」を解体する農民層分解の不徹底さである。3点目は既に述べたように、中世の吉良家の重臣の多くが世田谷二十ヶ村の村役人、つま



り名主、年寄の地位に付いて「下人経営」を根付かせ、近世の小農民＝本百姓層への農民層分解に阻絶的役割を果しているのである。すなわち、世田谷二十カ村の代官大場市左衛門（吉重）と瀬田村名主長崎四郎右衛門は「下人経営」の富士山型ピラミッドの頂点に立つが、中位の「下人経営」（下人の数7人）を行っている上野毛村の名主田中源兵衛と年寄木村三右衛門は共通して後北条家に仕えた重臣であり、武將の流れを系統とする。田中家と木村家とが上野毛村の村内総反別の98%を占め、村内の土地を支配していた点について次のように位置づけられる。

「〔A型の農民＝有力農民〕

A型の農民は「筑後」（田中氏）・外記（木村氏）・助七郎（田中氏）の三名であるが、かれらはいずれも先述したように検地の際の案内人であり、中世以来の在地士豪の系譜を引く者である。吉良氏時代についての関係文献に散見する田中三河守・田中出羽・田中孫八などの名は、この田中氏の一族と推定される。なかでも筑後の家は代々上野毛村の名主をつとめ、のちに「一本紙名主」という一段高い格式を与えられている。

この三名の主作地および分附地の数を調べてみると……反別総計一三町三反一畝二五歩となつて、村内総反数の九八%を占め、耕地の筆数でいえば、総筆数二二三のうち二一一筆（九五%）で、この村のほとんど全ての土地を支配していたと言っても過言ではない。

また、検地帳に記載された屋敷数から見ると、その合計一二軒はいずれも三名の有力百姓の所有ないしは分附屋敷であった。例えば筑後は、四軒の屋敷地をもち、そのうち一軒は主居屋敷で彼自身が住み、その他の三軒は彼の配下にある分附農民が分附屋敷として名請している。

このように、田畑といい、屋敷といい、いずれもこの三人の支配にあった。ここで、この三人の有力百姓の性格を知るために、彼らの名を冠する土地を、事例で示すと、次の三通りとなる。

- ①上田老反老畝六歩 筑後分 主作
- ②下畑七畝拾四歩 筑後分 善五郎作
- ③下田式拾六歩 弾左衛門分 筑 主作

①は当時、いまだ家父長的な複合家族制のもとに一族の労働力および譜代下人を使って手作り経営を行っていた「主作地」である。

②は中世以来の伝統を背景にして、地主の得点を徴収しうる土地で、これを村内の隷属農民に貸与して、耕作させている土地である。③の「筑」の字を冠する土地は、筑後との関係がまだ解消していないことを示すもので、こうした記載様式はB型に属する経右衛門と弾左衛門の両者の場合だけ存在する。経右衛門は中田三反二畝の一筆だけ、弾左衛門は下田・下畑合せて二反三畝十三歩という零細な土地保有者である。しかし、両者はいずれも田を所有し、かつ有力百姓の分附農民でないところから、いわゆる隷属農民の自立したものと見るよりは、有力農民から分出したもの、あるいは血縁関係にもとづき、分家を前提として、本家の土地の一部が名請されたものではないかと推定される。以上のことから本家の庇護関係を脱却しきっていないところから、いまだ「筑」の字が冠せられたものと解せられる。」

（「新修世田谷区史」上巻540～541頁）

以上引用したこの文章の中で重要な点は2つある。

第1は中世の「下人経営」の展開は徳川幕府の農村支配の基軸をなす近世の小農民層の支配と対立する点である。このため、徳川幕府は村落共同体の土地、屋敷そして農民を支配する中世の「下人経営」の解体を余儀なくされ、その解体の担い手として近世の小農民層の発達を農業

図表-3 世田谷二十ヵ村の「下人経営」者の分布

村落	地位	「下人経営」者				家族数		下人		合計		
		男	女	計	男	女	計					
1 世田谷村 惣寄 1613 (男864 女702 出家47) 屋守 19 (男女13 下人6) 鳥目計 六百七拾七文	代官 名主 名主 年寄	大場	左衛門	門衛	8	12	14	26	53			
		場六	兵衛	門衛	5	7	9	16	21			
		宇田	左衛門	門衛	5	7	2	9	18			
		閔善	左衛門	門衛	4	5	3	8	12			
		田重	兵衛	門衛	6	6	5	11	17			
		大場	三郎左衛門	門衛	5	3	1	4	9			
		大下	左衛門	門衛	5	3	2	5	10			
		本平	左衛門	門衛	5	1	1	2	7			
		大場	右衛門	門衛	5	6	4	10	15			
		大場	吉源左衛門	門衛	9	1	1	1	10			
		小川	左衛門	門衛	11	1	1	1	12			
		是庭	彦兵衛	門衛	7	2	2	2	9			
		庄左	兵衛	門衛	4	1	1	1	5			
		勘右	兵衛	門衛	6	1	1	2	8			
		三右	兵衛	門衛	6	1	1	1	7			
		市右	兵衛	門衛	6	1	1	3	10			
		勘右	右衛門	門衛	5	1	1	1	6			
		久右	右衛門	門衛	8	1	1	2	10			
		弥右	兵衛	門衛	2	7	2	9	11			
		源兵	兵衛	門衛	11	1	1	1	12			
		弥右	兵衛	門衛	4	4	4	8	12			
		儀次	兵衛	門衛	5	6	3	9	17			
		源平	右衛門	門衛	4	2	2	4	8			
		猪右	兵衛	門衛	5	2	1	3	8			
		権左	左衛門	門衛	7	5	4	9	16			
		角左	左衛門	門衛	8	2	2	2	10			
		德左	左衛門	門衛	8	3	2	5	13			
津多	郎左衛門	門衛	3	2	1	3	6					
郎左	兵衛	門衛	8	2	2	2	10					
平兵	兵衛	門衛	7	1	1	1	8					
三郎	右衛門	門衛	6	2	1	3	9					
六右	右衛門	門衛	2	2	1	1	3					
権左	左衛門	門衛	4	1	1	1	9					
彦左	左衛門	門衛	8	1	1	1	9					
勘左	左衛門	門衛	5	2	1	3	8					
九左	左衛門	門衛	6	1	1	1	7					
庄左	左衛門	門衛	6	1	1	1	7					
傳右	右衛門	門衛	7	3	3	6	13					
市郎	左衛門	門衛	7	1	1	1	8					
十郎	左衛門	門衛	5	1	1	2	7					
傳左	左衛門	門衛	6	2	2	4	10					
禪宗	豪徳寺	院	8	2	1	3	11					
禪宗	常徳院	院	3	2	2	2	5					
禪宗	善徳院	院	2	1	1	1	11					
真言	宗圓光院	院	1	1	1	1	2					
2 弦巻村 惣寄 226 (男124 女96 出家6) 鳥目 貳百三拾四文	名主 年寄	次右	左衛門	門衛	6	3	1	4	10			
		与五	兵衛	門衛	4	1	1	1	5			
		次郎	兵衛	門衛	7	1	1	1	8			
		吉右	兵衛	門衛	4	1	1	2	6			
3 新町村 惣寄 332 (男179 女151 出家2) 鳥目 貳百三拾四文	名主 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄	甚左	左衛門	門衛	10	1	1	1	11			
		兵右	右衛門	門衛	7	1	1	1	8			
		吉右	右衛門	門衛	12	1	1	2	14			
		清兵	右衛門	門衛	3	1	1	1	4			
		清郎	右衛門	門衛	14	1	1	1	15			
		平郎	三郎	門衛	2	1	1	1	3			
		德左	左衛門	門衛	11	1	1	1	12			
		庄兵	兵衛	門衛	5	1	2	3	8			
		猪右	兵衛	門衛	7	1	1	1	8			
		傳兵	兵衛	門衛	8	2	2	2	10			
		孫兵	兵衛	門衛	7	1	1	1	8			
		4 用賀村 惣寄 588 (男288 女293 出家7) 鳥目 六百貳拾錢	名主 年寄	飯田	弥右	兵衛	門衛	7	3	1	4	11
				飯田	傳兵	衛門	8	2	2	2	10	
次郎	左衛門			門衛	5	1	1	1	6			
三郎	右衛門			門衛	3	2	3	5	8			
5 野良田村 惣寄 294 (男169 女124 出家1) 鳥目 六百貳拾五文	名主 年寄			糟谷	猪右	兵衛	門衛	6	9	4	13	
				糟谷	兵衛	門衛	10	3	1	4	14	
				太郎	右衛門	門衛	4	2	2	2	6	
				太郎	右衛門	門衛	6	1	1	1	7	
				安左	兵衛	門衛	5	1	1	2	7	
				与兵	後家	門衛	6	3	3	6	12	
				彦右	右衛門	門衛	5	1	1	1	6	
				次右	右衛門	門衛	4	1	1	1	5	
				権右	右衛門	門衛	9	3	3	3	12	
				弥次	右衛門	門衛	8	4	1	5	13	
				次右	兵衛	門衛	7	2	2	2	9	
				太郎	右衛門	門衛	8	2	2	2	10	
				三郎	右衛門	門衛	5	2	2	2	7	
		權平	右衛門	門衛	9	2	2	2	11			
		6 小山村 惣寄 112 (男57 女54 出家1)	名主 年寄	喜右	左衛門	門衛	6	2	2	2	8	
				八左	左衛門	門衛	6	2	2	4	10	
		7 下野毛村 惣寄 339 (男186 女150 出家3) 鳥目 三百五拾壹文	庄屋 年寄	戸井	田三郎	兵衛	門衛	10	5	2	7	17
原猪	右衛門			門衛	5	1	1	1	6			
加藤	弥左			衛門	7	2	2	2	9			
傳左	兵衛			門衛	7	2	2	2	9			
八兵	兵衛			門衛	8	1	1	1	9			
権右	兵衛			門衛	8	2	2	4	12			
甚真	言宗浄音寺			寺	5	1	1	1	6			
8 上野毛村 惣寄 131 (男69 女59 出家3) 鳥目 百三拾五文	名主 年寄	田中	源兵衛	門衛	10	4	3	7	17			
		木村	三右衛門	門衛	8	5	2	7	15			
		新金	左衛門	門衛	10	2	2	2	12			
		庄兵	左衛門	門衛	8	2	1	3	11			
9 瀬田村 惣寄 605 (男333 女264 出家8) 鳥目 六百拾九文	名主 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄 年寄	長崎	四郎右衛門	門衛	5	19	16	35	40			
		白居	十郎右衛門	門衛	6	1	2	3	9			
		柳田	源右衛門	門衛	3	2	2	4	7			
		杉田	傳兵衛	門衛	8	1	1	2	10			
		角居	六兵衛	門衛	7	4	2	6	13			
		彦右	右衛門	門衛	7	1	1	1	8			
		長兵	兵衛	門衛	8	6	2	8	16			
		金十	郎	門衛	7	2	2	2	9			
		甚左	左衛門	門衛	3	1	1	2	5			
		吉兵	兵衛	門衛	6	1	1	1	7			
傳左	左衛門	門衛	8	4	2	6	14					
善次	右衛門	門衛	5	1	1	2	7					
善右	右衛門	門衛	9	5	2	7	16					
利左	左衛門	門衛	6	2	2	2	8					
七郎	左衛門	門衛	5	1	1	2	7					
猪右	右衛門	門衛	8	1	1	1	9					
利右	兵衛	門衛	2	1	1	1	3					
源左	左衛門	門衛	2	1	1	2	4					
十兵	兵衛	門衛	5	1	1	1	6					
金左	左衛門	門衛	4	1	1	1	5					
弥左	左衛門	門衛	4	1	1	1	5					
勘左	兵衛	門衛	4	2	3	5	9					
善左	左衛門	門衛	5	1	1	1	6					
善左	左衛門	門衛	4	3	2	5	9					
三郎	左衛門	門衛	6	3	2	5	11					
市右	右衛門	門衛	7	2	1	3	10					

村 落	地位	「下人経営」者	家族数	下人			合計	村 落	地位	「下人経営」者	家族数	下人			合計
				男	女	計						男	女	計	
10 岡本村 惣寄 237 (男136 女99 出家2) 鳥目 二百四拾五文	名主 年寄 年寄	萩野七郎右衛門	13	1		1	14			弥五左衛門	6	3	1	4	10
		海老沢三郎兵衛	10	1		1	11			兵衛	5	1		1	6
		飯嶋傳左衛門	7	1		1	8			衛門	6	2	1	3	9
		太兵衛	6	1	1	2	8			門	5	2	3	5	10
		吉左衛門	10	1		1	11			門	5	1	1	2	7
吉権三郎	11	2	1	3	14	郎	5	1	1	2	7				
11 鎌田村 惣寄 140 (男73 女66 出家1) 鳥目 百四拾四文	名主 年寄	安藤平左衛門	8	10	4	14	22			川合次左衛門	7	5	3	8	15
		藤右衛門	8	3	1	4	12			郎左衛門	4	1	1	2	6
		辺勤兵衛	5	1	1	2	7			兵衛	3	1		1	4
		猪兵衛	5	1	1	2	7			衛門	7	1		1	8
		真言宗吉祥院	1	2		2	3			門	5	2	2	7	10
12 大蔵村 惣寄 562 (男296 女260 出家6) 鳥目 五百八拾二文	名主 年寄 年寄 年寄	石居市右衛門	7	9	5	14	21			川小川八郎左衛門	4	1	1	2	6
		安藤六右衛門	4	1	1	2	6			兵衛	3	1		1	4
		石居文右衛門	9	5	4	9	18			門	7	1		1	8
		石河野八郎右衛門	11	2	3	5	16			門	5	2		2	7
		石嶋金右衛門	2	1		1	3			門	4	1		1	5
		石佐三兵衛	10	1		1	11			兵衛	11	2	1	3	14
		権次兵衛	7	1		1	8			衛門	5	3	2	5	10
		権六左衛門	8	1		1	9			門	5	1	1	2	7
		佐太郎兵衛	4	4	3	7	11			門	5	1	1	1	6
		次郎兵衛	8	1		1	9			衛門	6	1		1	7
		長兵衛	7	2	1	3	10			衛門	6	1		1	7
		甚五兵衛	3	1		1	4			院	4	1		1	5
		武右衛門	5	2	1	3	8								
		長十郎	11	1	1	2	13								
		甚左衛門	12	1		1	13								
次左衛門	9	2	4	6	15										
勘十郎	8	1		1	9										
甚五左衛門	3	1	2	3	6										
13 横根村 惣寄 20		善兵衛	10	1		1	11			彦右衛門	8	6	3	9	17
												三左衛門	5	2	
14 宇奈根村 惣寄 294 (男148 女143 出家3) 鳥目 三百六文	名主 年寄 年寄	荒居市郎兵衛	3	7	5	12	15			嶋田権右衛門	4	5	5	10	14
		海老沢善十郎	6	7	8	15	21			市右衛門	7	2	2	4	11
		香取弥次右衛門	5	2	3	5	10			門	4	2	1	3	7
		傳右衛門	11	5	5	10	22			惣傳左衛門	6	1	1	2	8
15 岩戸村 惣寄 249 (男136 女110 出家3) 鳥目 貳百五拾七文	名主 年寄	川合次左衛門	7	5	3	8	15			小川次郎兵衛	5	1	1	2	7
		小川八郎左衛門	4	1	1	2	6			衛門	5	1	1	2	7
16 猪方村 惣寄 178(原文ママ) (男96 女83) 鳥目 百八拾貳文	名主 年寄 年寄	長右衛門	7	1		1	8			小川太郎左衛門	5	1	1	2	7
		石居文右衛門	9	5	4	9	18			兵衛	5	1	1	1	6
		石嶋金右衛門	2	1		1	3			門	6	1		1	7
17 和泉村 惣寄 162		須野平兵衛	4	1		1	5			八郎兵衛	6	1		1	7
		嶋田権右衛門	4	5	5	10	14			院	4	1		1	5
18 八幡山村 惣寄 87 (男47 女40) 鳥目 八拾七文	年寄 年寄	石居文右衛門	9	5	4	9	18			嶋田権右衛門	4	5	5	10	14
		石嶋金右衛門	2	1		1	3			市右衛門	7	2	2	4	11
		石佐三兵衛	10	1		1	11			門	4	2	1	3	7
19 太子堂村		甚左衛門	12	1		1	13			惣傳左衛門	6	1	1	2	8
		次左衛門	9	2	4	6	15			門	6	1	1	2	8
20 馬引沢村 惣寄 44 鳥目 四拾四銭		勘十郎	8	1		1	9			彦右衛門	8	6	3	9	17
		三左衛門	5	2		2	7			門	5	2		2	7

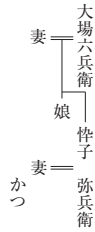
図表-4 村落毎「下人経営」の規模別分布

村名	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	合計	
1 世田谷										1																1	1	3	2	1	1	2	3	8	9	15	48
2 弦 巻																																	1	1	3	5	
3 新 町																																	1	2	7	10	
4 用 賀																													1	2	4	1	3	5	16		
5 野良田																								1						1	1	1	1	6	3	14	
6 小 山																															1	1			2		
7 下野毛																													1		1	2	3	7			
8 上野毛																													2			1	2	5			
9 瀬 田	1																											1	1	2	3	1	2	7	8	25	
10 岡 本																																	1	2	4	7	
11 鎌 田																						1									1	2		4			
12 大 蔵																						1								1	1	1	3	2	10	19	
13 横 根																																		1	1		
14 宇奈根																						1	1	1						2	1	2	3	2	13		
15 岩 根																												1			1	2	3	7			
16 猪 方																														1			1	3	5		
17 和 見																																		2	2		
18 八幡山																										1					1	1	1		4		
19 太子堂																											1								1		
20 馬引沢																																		1	1		
合 計	1									1											1	3	1	1	1	3	4	4	6	5	12	16	22	46	70	196	

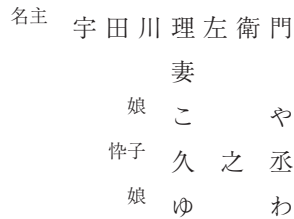
政策の中心課題とする点である。第2は徳川幕府の初期においても依然中世の「下人経営」が在地名主＝豪農の手作地＝直轄地を隷属下人によって耕作させ、中世的地主手作経営の継続されている点である。第3は農民層分解の2つ目の対立である。第1の農民層分解は在地地頭領主のイニシアチブによって中世的な農民層の分解を促進し、隷属農民＝下人を自立する小農民層に成長させ、小作人或いは自小作人の小農民として手作地＝直轄地を耕作させる寄生地主制の形成へ帰結する道である。第2の農民層分解は、本百姓＝名主の自立を育む村落共同体の自治体制、5人組による貢納体制そして小家族制＝単婚家族の自主独立性の確立による近世の小農民層の発達である。しかし、上野毛村の名主及び年寄を務める田中家と木村家は徳川幕府の初期段階で依然として中世の「下人経営」によって中世的地主手作経営を営んでいる。さらに、図表-1の中で、元禄8年（1695年）における上野家村名主田中源兵衛の家族構成は(1)3世帯複数大家族制（10人）を次のように展開する。

名主	田	中	源	兵	衛
				妻	
				母	
源兵衛	粹	子	源	八	
	同娘		ま	ん	
	同娘		か	や	
	同娘		し	ゆ	ん
	同娘		し	け	
源兵衛	弟		権	之	介
	同弟		与	兵	衛

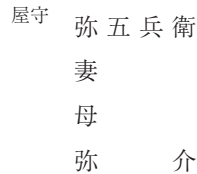
こうした名主、年寄等の複数世帯大家族制から夫婦中心の単婚家族＝小家族制への移行は近世の小農層＝本百姓制の形成に不可欠な道である。というのも、前述したように、田中家は10人の3世帯複合大家族制に加えて、下人男女計7名で、「下人経営」の地主手作経営を行っている。家族制の形態について見てみると、「下人経営」を3世帯複合家族制で行うのを第1形態とするなら、第2形態は世田谷村の名主大場六兵衛家の親子2世代複合家族制で次の形態となる。



大場六兵衛家は2世帯複合家族5人の形態に下人男7人と女9人の16名を抱え、「下人経営」の地主手作経営を展開している。第3形態の単婚夫婦の小家族制へ脱皮したのは世田谷村名主宇田川理左衛門家であり、次の単婚小家族5人制を形成する。



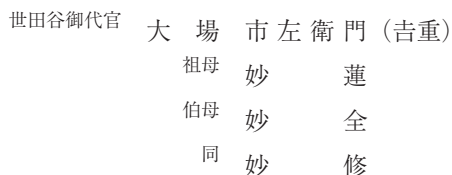
宇田川理左衛門は5人の単一婚小家族制を展開しながら、他方において下人（男7人・女2人）9人と譜代農民弥五兵衛家族を別屋敷に住ませる屋敷守制を次のように展開する。



世田谷村名主宇田川理左衛門は代官大場六兵衛と類似の「下人経営」と譜代屋敷守の計（家族5人＋下人9人＋屋守4人）18人による地主手作経営を大規模に展開し、近世的地主手作経営への過渡的移行をその単婚小家族制の中に見出すのである。

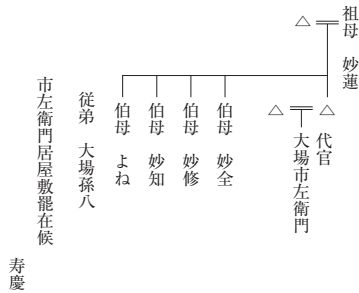
以上の家族制の3形態の中で特異な家族制と地主制手作経営を発展させているのが世田谷村二十ヶ村の代官大場市左衛門家である。その家族形態と屋敷守形態は次のような構成となっている。

(イ) 大場市左衛門の家族構成



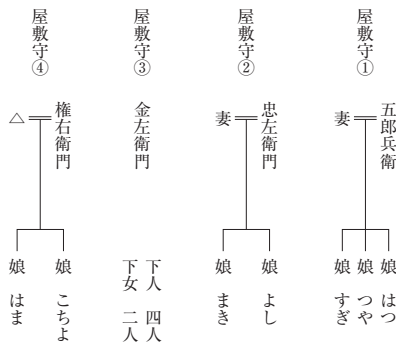
同 妙 知  
 同 よ ね  
 先市左衛門従弟 大 場 孫 八  
 市左衛門居屋敷能任候 寿 慶

この家族構成 8 人を図式化すると次のようになる。



(四) 代官大場家の屋敷守構成

代官大場家は家族屋敷の他に下記のように 4 つの世帯の農民家族の住む屋敷の 4 軒を屋敷守として有する。



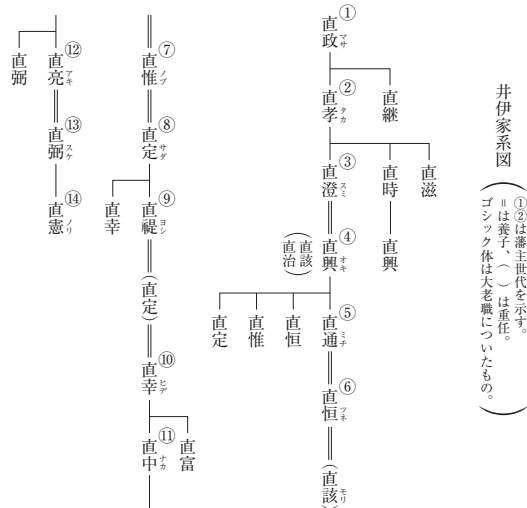
(「新修世田谷区史」上巻 720～722 頁)

世田谷村代官大場市左衛門は図表-7 に示される田畑 7 町歩余りを主要に(1)家族労働と(2)男女下人 25 人、及び(3)譜代百姓の屋敷守家族 13 人+下人(男女) 6 人 合計 31 名によって地主手作経営を大規模に行うのである。したがって、世田谷村代官大場家はこうした地主手作経営を発達させ、世田谷二十ヶ村の頂点に立つ豪農としても活躍する。瀬田村の名主長崎四郎右衛門は家族 5 人と下人 35 名の計 40 人で地主手作経営(持高 71 石余り)を営み、代官大場市左衛門を上廻る大規模下人経営を行っている点で特異な存在である。

ここで世田谷代官大場家と彦根藩井伊家との関係について概観する。

井伊家は次の図表-5 井伊家系図に見るように初代藩主井伊直政<sup>マサ</sup>から14代続く徳川譜代大名で有名なのが13代目の直弼<sup>すけ</sup>であり、安政の大獄と桜田の門事件である。このため、吉田松陰は世田谷の松陰神社に祭られ、井伊直弼の墓も近くの豪徳寺に建立され、明治維新のクーデターへの原因ともなった。

図表-5 井伊家系図



(「新修世田谷区史上巻」455頁)

この図表-5での2代藩主直孝<sup>たか</sup>は慶長18年大阪夏の陣、さらに冬の陣での豊臣秀頼軍の木村重成を破って大坂城攻撃の先手を引受け、ついに豊臣秀頼の自害に追い込む活躍をする。この功績によって徳川家康から5万石を加増されて井伊藩は20万石の大名へ出世した。次の3代将軍家光は寛永10年(1633)に関東に5万石の追加加増をする。

井伊家の先祖は平安時代一条天皇に仕えた藤原共保を始祖とする。藤原共保は一条天皇から遠江守に任命され、前任地の引佐郡井伊谷に住んだことから井伊氏を名乗った。

前述したように井伊藩は関東に5万石を追加されたが、この加増の中に2,306石の世田谷村が含まれていたのである。

世田谷村は中世吉良氏の城下町世田谷宿として発達していた。中世吉良氏は足利幕府の滅亡後、後北条家に仕え、戦国時代に関東への進出を四天王に担わせた。その一角を成したのが武将大場家であり、世田谷城を拠点に支配を確立したが、豊臣秀吉の小田原城攻めで、世田谷で豪農として再出発することとなる。徳川家康の江戸城への進出は関東支配を直接支配から間接支配へ移行させる契機となった。関東を支配し、或いは知行地を与えられていた大名、旗本等は江戸城周辺に屋敷を与えられ、江戸に定住することを命じられた。代りに在地支配は代官、

図表-7 「大場市之丞家の地主手作経営」

反数合七町五反壹畝六歩	田	方	田畑上中下共
内 壹町壹反貳四歩	畑	方	
六町四反十二歩			
此わけ			
上田三反壹畝拾貳歩			但壹反ニ付壹石代
分米三石壹斗四升			
中田六反六畝廿四歩			但壹反ニ付八斗代
分米五石三斗四升四合			
下田壹反貳畝拾八歩			但壹反ニ付六斗代
分米七斗五升六合			
上畑壹町九反四歩			但壹反ニ付四斗五升代
分米八石五斗五升六合			
中畑壹町八反七畝廿壹歩			但壹反ニ付三斗代
分米五石六斗三升壹合			
下畑貳町五反七畝七歩			但壹反ニ付貳斗代
分米五石壹斗四升五合			
新屋敷五畝拾歩			但壹畝付四升五合代
分米貳斗四升三夕			
田石合 九石二斗四升			
畑石合 拾九石三斗三升貳合			

〔新修世田谷区史〕上巻763頁）

名主、年寄等の村役人の直接支配するところとなり、村落共同体の直接責任による貢納組織、或いは村落共同体の自治行政を担う5人組制の形成、さらに、小農＝本百姓による共同耕作制を中心とする名主制の確立は、同時に徳川幕府体制を確立することとなる。

しかし、これまで指摘したように、世田谷村20ヶ村が中世吉良家の支配地となり、そこに「下人経営」による地主手作経営が富士山型ピラミッドとして根付いていた。その頂点に立つのが瀬田村の長崎家と世田谷村の代官大場家であることについては前述したところである。

井伊藩は在地支配を強める吉良家の旧家臣出身である在地豪農層を村方役人に任命して、世田谷20ヶ村の安定と秩序維持に務め、と同時に、検地によって農民支配の強化を計った。これら数日の検地は世田谷20ヶ村の村高と耕地増減を確定するのに大きな役割を果たし、と同時に、井伊藩の在地支配を確立することとなり、152頁の図表-6に要約される。

図表-6から窺えるように検地が繰り返される理由の一つは新田畑の所属を確定するためである。この係争は村内、村落相互間で激しく繰り返され、その決着を着けるために検地を行うのである。その代表例は鎌田村と大蔵村の争いである。

「村ノ広狭ハ田畑大蔵村ト入会タレバ接界モ分チガタケレバ、凡ハ東西へ二十丁、南北三十丁許、…(中略)一原野ハカリ、其処ハ秣場ニシテ此ノ方ハ大蔵村ト入会タリ」と。

代官、名主、年寄等はこの検地に立ち会い、土地紛争の解決に努力する。

他方、検地は新田地を小農民に賦与し、その土地の名主＝本百姓として確認するのに大きな役割を果たし、農民層分解を推進することとなる。



図表-6 世田谷二十カ村の雑地と耕地増減傾向

村名	年代	村高			野米	増加分										その他												
		高	田	畑		上田	中田	下田	上畑	中畑	下畑	屋敷	新屋敷	新田	新畑		下林											
世田谷	正保	石	石	石	2.149						196.20			24.00	660.14	660.14												
	元禄9	〃	〃	〃	1.902						〃			579.03 (47.06) 20.27)	1.24	663.01	663.01	新ヤシキ 90.13	255.06	274.11		10356.08	1632.23	10335.17	1654.26			
	元文5	〃	〃	〃	〃									626.09	16.26	663.01	663.01		284.24	284.24		10330.02	1612.02 (20.27(雑地))	10335.17	1654.26			
苅巻	文化5	〃	〃	〃	〃									1.01	64.01	269.19	269.19	8.27	11.01	14.07		24.54.14 ヤ成 (-3.06)	69.03	24.51.09	〃	〃		
	正保	133.411	69.072	64.339	0.892						48.14			〃	111.08	〃	〃	〃	〃	〃		38.23	〃	〃	〃	〃		
	元禄9	〃	〃	〃	0.649						〃			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃		
用賀	元文5	〃	〃	〃	〃									1.19	134.16	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	文化5	〃	〃	〃	〃						22.18			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	正保	171.154	85.954	85.200	8.914						507.06 (507.06 1.17)			13.03	94.06	504.02	504.02		79.28	84.16 (84.16 12.14)		7607.13 (1963.19 5626.22)	38.23	38.23	7607.13	〃		
野良田	元文5	〃	〃	〃	〃						440.27			72.07	〃	〃	〃	〃	102.06	102.06		7576.18	49.28	49.28	7576.18	〃	〃	
	文化5	〃	〃	〃	〃						2.22			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	正保	78.067	31.824	46.243	1.564						204.11			3.10	27.17	301.24	301.24	30.26	57.25	61.27		3206.17	3.00	3.00	3206.17	〃	〃	
小山	元禄9	〃	〃	〃	0.672						3.05 (3.05 191.14 13.06)			〃	34.15	290.22	290.22	31.16	61.27	61.27		3185.02	(3.00 2.08)	3185.02	〃	〃	〃	
	元文5	〃	〃	〃	〃						29.26			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		3184.14	〃	〃	〃	〃	〃	
	文化5	〃	〃	〃	〃						215.15			59.23	35.13	278.11	278.11	31.16	61.27	61.27		3184.14	〃	〃	〃	〃	〃	
下野毛	正保	52.459	33.089	19.370	0.514						86.01			4.00	187.23	187.23	187.23	3.00	3.00	3.00		667.01	145.20	667.01	145.20	〃	〃	
	元禄9	〃	〃	〃	〃						85.19			〃	2.02	178.13	178.13	〃	(9.10 3.00)	9.10		125.20	125.20	125.20	125.20	〃	〃	
	元文5	〃	〃	〃	〃						76.02			9.03	9.29	176.13	176.13	11.10	3.00	3.00		145.20	145.20	145.20	〃	〃	〃	
上野毛	文化5	〃	〃	〃	〃									9.03	9.29	176.13	176.13	11.10	3.00	3.00		145.20	145.20	145.20	〃	〃	〃	
	正保	211.571	154.213	97.358	1.282						28.18				14.02	42.06	42.06		2.14	2.14		1906.11	617.06	1906.11	617.06	〃	〃	
	元禄9	169.428	51.391	119.096	〃						27.02			11.08	12.21	235.26	235.26		3.05	3.05		1795.27 (58.03)	615.12	1795.27	615.12	〃	〃	
上野毛	元文5	〃	〃	〃	〃						44.08			9.10	239.05	239.05	239.05		3.05	3.05		2174.23	615.12	2174.23	615.12	〃	〃	
	文化5	〃	〃	〃	〃						45.20			9.10	239.05	239.05	239.05		3.05	3.05		2174.23	615.12	2174.23	615.12	〃	〃	
	正保	55.016	31.517	23.499	0.386						〃			6.25	12.11	167.05	167.05	0.20	10.26	10.26		2193.21	371.15	2193.21	371.15	〃	〃	
上野毛	元禄9	〃	〃	〃	〃						(0.28 9.17)			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		53.24	53.24	53.24	53.24	〃	〃	〃
	元文5	〃	〃	〃	〃						10.15			〃	〃	166.15	166.15	〃	(11.26 0.20)	4.20		2191.21	〃	2191.21	〃	〃	〃	〃
	文化5	〃	〃	〃	〃						〃			7.15	12.15	165.15	165.15	0.20	12.26	12.26		53.24	53.24	53.24	53.24	〃	〃	〃

瀬田	正保 元禄 9	354.660	195.730	158.930	2,870	14.22	39.12	85.12	9.08	10.03	235.24	7.04	( 26.23 189.09 )	3760.18 29.15	505.26	
田	元文 5	〃	196.719	157.941	〃	23.13	60.05	94.00	16.05	25.10	213.19	0.20	( 18.22 33.00 )	3729.09	565.16	60.10芝地
	文化 5	〃	〃	〃	〃	21.10	64.09	96.03	16.23	23.29	200.06	9.19	50.24	3612.21	507.12	30.28柳畑
岡	正保	191.670	146.100	45.57	0.771			192.13			617.03	21.21		1661.14	571.04	
本	元禄 9	〃	〃	〃	〃			167.15		17.07	〃	27.07		1656.04	〃	792七20
	元文 5	〃	〃	〃	〃			2.09		37.12	〃	7.01		〃	〃	
	文化 5	〃	〃	〃	〃			110.12			〃			〃	〃	
鎌	正保	86.910	68.774	18.136	0.771			89.23			5.25		4.00	1387.28		
田	元禄 9	〃	68.777	18.133	〃			89.22			1.26		6.00	1554.19		(7206下川原畑 190.00 成 60.00
	元文 5	〃	〃	〃	〃	0.06		89.22			1.26			1546.25		
	文化 5	〃	〃	〃	〃			138.07			1.26			〃		
大	正保	263.974	228.230	35.744	1.799			32.23			39.07	95.16	31.10	5454.14	226.04	444.22
藏	元禄 9	〃	〃	〃	〃			( 69.11 10.16 )	5.18		29.21	109.00	33.06	5937.14	〃	9.16藤成畑
	元文 5	〃	〃	〃	〃	12.26	2.18	193.13		1.12	29.03	16.17	7.00	5110.02		2.25下田河原芝 7300 地
	文化 5	〃	〃	〃	〃	29.26	〃	〃	〃		29.03	16.17	73.19	〃		3.13241.23
宇	正保	畑54町65 七17	(見取場)	畑54町65 七17	3棟235									1333.18		
奈	元禄 9	53石377	〃	169石841	1石285									11.80.15		
根	元文 5	〃	〃	〃	〃									888.00		
	文化 5	〃	〃	〃	〃									354.18		芝地1516.19
岩	正保	119.320	66.993	52.327	1石542			504.07			359.01	10.23	24.13	1640.02	278.25	
戸	元禄 9	〃	〃	〃	〃			〃			25.15	17.14	36.27	1633.14	〃	
	元文 5	〃	〃	〃	〃			〃				17.11	40.21	1638.14		
	文化 5	〃	〃	〃	〃			56.05			356.23	2.08		〃		下林278.25
猪	正保	84.679	49.364	35.315	0.250								4.20			
方	元禄 9	67.133	31.818	〃	〃			( 46.04 1.24 )		10.03		4.03	( 39.13 801.19 )	453.27	124.00	
	元文 5	〃	〃	〃	〃			7.25		〃		6.20	6.17	〃		下林
	文化 5	〃	〃	〃	〃			75.09		9.05		7.24	2.10	462.27	〃	142.20
八	正保	2.680	〃	2.680	〃						19.12	39.08		374.27		124.00
幡	元禄 9	2.680	〃	2.680	〃						〃	52.29		710.21		
山	元文 5	〃	〃	〃	〃						〃	59.29		697.00		
	文化 5	〃	〃	〃	〃						〃			690.00		
新	正保											211.19		37.86.22		
町	元禄 9											235.20		67.16		
	元文 5											235.20		37.62.21		
	文化 5											235.20		40.86.02		御作菌場跡 317.04

(「新修世田谷区史」上巻690-691頁)

世田谷村二十ヶ村が飛び地として井伊藩領に編入された寛永10年（1633）に、藩主井伊直孝は、世田谷村二十ヶ村の代官に大場市之丞（盛長）を任命する。これまで繰り返し述べたように大場越後守信久は中世の後北条氏の重鎮吉良家の四天王として関東征服の先鋒役を務め、徳川幕府の初期において世田谷村に豪農として定住し、且つ在地領主としての地位を確立していた。世田谷村で豪農のもう一人の代表として活躍していたのが市之丞である。代官に任命された時の大場市之丞の持高は151頁の図表-7「大場市之丞家の持高28石5斗2合=反数七町五反壱畝六歩の内訳」に要約される。

前に指摘したように、大場市之丞は家族、下人、そして譜代農民等31名を動員して地主手作経営としてこの7町歩余を耕やす在地豪農であると同時に世田谷二十ヶ村の井伊藩代官として在地支配の確立に努めるのである。尚、大場市之丞家は本家大場盛長の分家であるが、7代にわたって世田谷代官を世襲する。そして本家の大場家はその間、上町の名主と宿場の差配役を勤めている。大場市之丞家の7代目代官が年貢引負の罪で失脚すると、本家7代目大場六兵衛盛政が世田谷代官に就任し、明治維新まで代官の世襲化を進める。そして、大場本家である六兵衛盛政は元文4年（1739）に世田谷代官に就任し、代官家の基礎を確立するが、その強靱化を計ったのが寛政6年（1794）に代官となった大場弥十郎景運である。したがって、次の課題は代官大場弥十郎の豪農・金融政商・寄生地主としての三位一体の活躍を明らかにし、江戸幕府から明治維新への移行過程を明らかにすることである。